

2022年度

NO.6 (通算 NO28)

2022・4・20

事務局だより

一般社団法人 示現会

事務所 ☎ 03-3824-9128

- 示現会展報告2
- 受賞者の言葉

裏面 ○<特集> 受賞者の言葉

コロナ禍という厳しい状況ではありましたが、75周年という記念の
展覧会でもあり懇親祝賀会の開催いたしました。何度となく会場と
なる上野精養軒と打ち合わせを行い、係りの綿密な準備でできる
限りの対策をとっての開催でした。

来年は多くの皆さんと一緒に楽しい懇親会を開催したいですね。

75周年示現会展 報告2

懇親会



成田理事長の祝賀の挨拶、井上事務責任者の展覧会概要報告、そして鈴木常務理事の乾杯で約2時間を楽しみました。また受賞された方々の紹介、併せて昨年度の受賞者の方々も紹介され、盛大な拍手をいただきました。

祝賀懇親会は100名余の参加、上野精養軒を会場で開催いたしました。コロナ感染のおさまらない中でしたので、人数制限、又行動の規制などがあり十分満足のいくものではありませんでしたが、75周年を祝うことが出来ました。

なお、今回は別日程で一般の入選者を対象とした、懇親会も開催いたしました。こちらもいろいろと制限がありましたが、出品者と役員が同じ席になり絵のことなど話が弾み、有意義な時間を過ごすことが出来ました。



表彰式



今回の現寿賞は5名の方が受賞されました。これから更なる活躍が期待されます

写真は現寿賞を受け取る福岡久蔵名誉会員



示現会賞

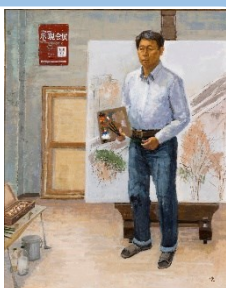
「陽だまり」
霜田 精奏



3月、名誉会員への推薦の報を頂き、1961年の初出品から61回も出品を続けられたのだなあと感慨無量でした。そして、あと何回出品できるだろうかと思っていましたので、この度は、はからずもおおきな賞を頂き喜びと同時に戸惑いを感じているところです。まだまだ老け込みますに頑張れ！とお励ましを頂いたと思つて感謝いたしております。ありがとうございました。

75周年記念賞

「キャンパスの
前に立つ」
石橋 俊博



キャンパスの前に立つ自画像を描くようになって3作目になります。1作目は73回展に向けて描いたもので展覧会が中止になり、人の目に留まることなく家にありました。9月京都支部展があり、そこに出す機会が訪れ、やっと人眼にとまることになりました。
2作目は74回示現会展に出したもので1作目と同じ構図ですが人物がエプロンをしていて画面左に奥に部屋があるように描きました。今回の絵は1作目と同じようにバックは壁にしました。時間が足らず描き込みができませんでした。

75周年記念賞

「春・一番」
湯浅 勉哉



絵を描くのは小学生の頃から好きであつた。
夏休みの宿題にはいつも30枚ほど絵を描いていた。学生時代は漫画研究会に入り、将来は漫画家になろうかと考えていた。
嫁さんの荷物の中にあつた油絵の道具から始めて、油絵を描き始めた。
周りには素晴らしい示現会の先輩が大勢おられた。十年分の修行時代が一年で済んだ位だ。思わぬ受賞の通知で八十一歳のこの半身不随の年寄は何を思つたのか。
有難うございました。

特集1

75周年記念展 受賞の言葉

受賞された方々の言葉を紹介します。
紙面の都合上全員の言葉は載せられませんでした。
ご了承ください。
受賞された作品はそれぞれに特徴があり、作家の個性が表現された素晴らしい作品でした。



樋口賞

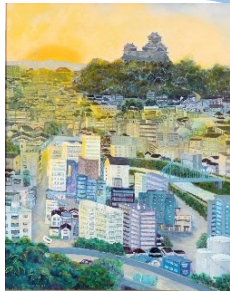
「休息」
川崎 猛



「いつも迷いながら」制作の過程で、ある程度納得しつつ筆を置く。しかし、展示会場で見ると自分の絵は、構図、色合い、何かが違って、愕然とすることしばしば……
示現会展に出品して三〇数年、先生の一言、仲間のコメントが良いヒントとなり少しずつ前に進んできました。
この度の受賞は、これからの制作活動の励みとなり元気を頂きました。大変有り難うございます。

大内田賞

「私の住む街(朝)」
星子喜代美



感謝の詞
外出から帰宅すると受賞通知が……驚き胸弾ませながら「これ……」届きましたと夫にみせると間髪いれずにおめでとう。よかつたね。飛行機でいかなんねの言葉がとも嬉しく感じました。
「コナ禍の心配もあったとおもうけど」
その夜は、私の好きな白ワイン、大皿に見たことのない山盛りのカンパチと鮎を準備！で招待されました。
応援して頂ける幸せをかみしめ、帰りの機内に、感謝の赤ワインを持ち込みました。

檜原賞

「全てが輝いている」
岡崎正枝



この度第75周年記念展に於いて、檜原賞を戴き、大変光栄に思うと共に、素晴らしい賞の受賞に重責を感じております。
この作品は、散歩の途中、道端の何気ない花にふと目が留まり、その生き生きとした輝きに心を動かされた瞬間を描きました。
「コナ禍であるが故に、改めて自然の美しさや生命力を強く感じています。全てが輝いている世の中になる様に願いを込めて、作品を描きあげました。」
今年の私のモットーは「梁しんで描く」です。今後も一層の努力を重ね、楽しい作品を描いていきたいと思っております。

会員賞

「残雪と新緑」
石田幸嗣



毎年示現会の春のスケッチ旅行で取材し、残雪と新緑をモチーフにして作品を仕上げています。今回の絵は長野の小川村です。
郷愁あふれる山里の村で、晴れた一日、豊かな自然を眼前にして時間を忘れて、仲間とともに夢中で絵を描くとき、心も体も開放されます。私の大好きな時です。でも、なかなか思った通りには絵は描けません。
栄誉ある賞をいただき感謝しております。ありがとうございます。これを励みにより一層奮闘努力していきたいと思えます。今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。

会員賞

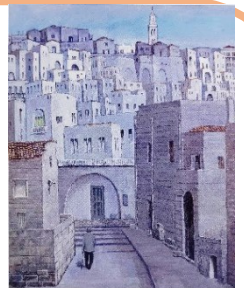
「雪解けの頃」
我妻宏也



この度は会員賞をいただき驚きとともに光栄に思っております。今回の作品は20年ほど前から大作にしようと思っていたものでした。近年冬に雨が降ることがあり雪になるのは少ない、急いで現場に行かないと溶けてしまい苦労します。
今後一層精進する所存であります。本当にありがとうございます。

現寿賞

「鐘楼の残る街」
福岡久三



絵を描くこと
現寿賞に決まりました」と知らせがありました。コナ禍の接点日4月7日です。受賞式には出られないと思いましたが、その話を市長さんに話したら「授賞式を市役所で行う」と言われて授賞式に出席できることになりました。
授賞式の会場には兵庫支部会員も大勢参加してくれていました。中の一が私のそばに寄ってきて「先生のようにならなくても元気で絵を書き続けられているのを見て是非私も先生のようになりたい」と言っていました。送りたいです」と言ってくれました。

現寿賞

「機場一螢てつ」
加藤勝彦



現寿賞ありがとうございます。心新たに新しい気持ちで努力したいと思えます。毎日「コナ」の影響で遠出することが無く、一日を大切に制作に励んでいます。作品が消費化するように思い、意欲的に精神集中させ雑念を捨て遅筆ながら筆を走らせます。私のモチーフ「織場」天候と光と時間に左右されながら描いていますが、小休止は人物画です。心に余裕ができ和みます。これからも明日に鞭打ち頑張ります。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

現寿賞

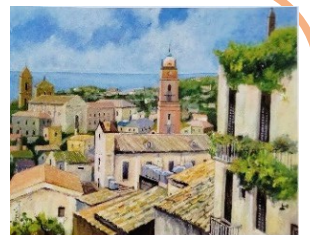
「旧家(蚕室残影)」
土屋 功



雪をモチーフに、雪国の生活は厳しい中にも、暖かいことを表現すべく努めている。
吹雪が去った後の陽が当たって光る雪景は、実に美しい。毎年厳寒の中写生に行くが旧農家の解体が進み、風景が一変し淋しい限り。幸い旧養蚕農家が厳然と残っていたので
「ついで」
一気に描き上げたが、真綿を知らない現代の人に「蚕室残影」の題名が、理解されただろうかと疑問視している今日この頃である

現寿賞

「シチリア島の街」
碩 信治



受賞に思う
本会に入選以来十九年の初受賞に深い感慨を覚えます。故河北浩先生に薫陶を受けること30年余、わずかなりともご恩に報い得たの思いです。
来年は卒寿を迎え、昨年の頸椎骨折事故で大作の制作は適いませんが、中、小作でも大作に劣らず画道に励んで参りますので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます

